



推論と感覚や感情のコミュニケーションに関する研究

人文科学系・言語文化学領域

笹本 涼子

准教授

SASAMOTO Ryoko

Doctor of Philosophy (英国サalford大学)

■研究キーワード 言語学・英語学・認知語用論・コミュニケーション・推論

■主な所属学会 国際語用論学会・日本語用論学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.ecf555c17f8160bc520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

私は現在、語用論、視聴覚翻訳、レセプション研究という観点からコミュニケーションの研究に取り組んでいます。特に、コミュニケーションが言語だけでなく、視聴覚を通じたマルチモーダルなものであることに着目し、感覚や感情の伝達に関する研究を行っています。近年では、オノマトペや絵文字、GIFスタンプなどを用いた感情の伝達や、世界的に使用が増えているテロップを含めた「画面上の文字」を通じたコミュニケーションについて語用論の立場から研究を行なっています。このような研究と通じ、私たちがどのように感情を伝えるのか、知覚表現を共有するのかを考え、語レベルでの語用論分析を超え、多様な学際的な視点からコミュニケーションの本質を解明していくことを目指しています。



アイトラッキング技術を用いたテロップについての研究

アピールポイント

「ことば」をコミュニケーションの観点から見ると、思いがけない発見がたくさんあります。例えば、*That's interesting* は字義通りに取れば相手に興味を持ってもらえたと考えてしまいがちですが、実は「全然面白くないな」と思われている場合が多くあります。話し手の意図をきちんと理解するために、私たちはことばだけでなく表情や声色、社会的ルールなどその他の文脈情報を考慮しながら推論をしているのです。また、人間のすぐれた推論能力のおかげで、ことばを超えたコミュニケーションが可能となっています。声や表情、仕草だけでなく色やデザインなどの見た目や物を置く場所など、身の回りにあるもの何を使ってもコミュニケーションが成り立つのです。例えば、テレビを見てみるとテロップがさまざまな色・デザインで出てきます。テロップのことばで書かれた以上のものが伝達されているわけです。また、サポーターをつけている手首を見せるだけでテニスへのお誘いを断ることもできます。逆にいうとコミュニケーションを可能にしているのはことばではなく人間の推論能力なのです。特に、コミュニケーションの場がますますデジタル化し、相手が同じ場にはいない、顔が見えないコミュニケーションが日常的になる中、推論についての研究はますます重要になっています。そこで、従来の語用論研究の緻密な言語使用分析を行うと同時に、映像翻訳学やレセプション研究の経験的手法、特にマルチモーダル分析やアイトラッキングテクノロジーも取り入れることにより、理論分析にも裏付けられた実証的アプローチでコミュニケーションの本質を明らかにしていきます。特に、ソーシャルメディアやマンガ、テレビなど、我々言語使用者が日常的に接する言語・非言語コミュニケーションの事象について、学際的でありながら認知理論にしっかりと根付いた分析を心がけています。